

## 松岡究 プロフィール

指揮を小林研一郎、ヨルマ・パヌラ、ランベルト・ガルデッリに師事。音楽学を戸口幸策に師事。1987年、ドニゼッティ「ビバ・ラ・マンマ」でデビュー。1991年文化庁在外派遣研修員として、ハンガリー・ブダペストに留学。小林研一郎、ランベルト・ガルデッリの下で研鑽を積む。その間スウェーデン・アルコンスト音楽祭にヨルマ・パヌラより招待され、タリン国立歌劇場管を指揮。「卓越した才能」と激賞された。帰国後は主に東京オペラプロデュースを中心に数々のオペラを指揮。93～96年新神戸オリエンタル劇場では常任指揮者としてオペラとコンサートをプログラミング・指揮した。また特にオペラで日本初演した作品は数多い。グノー「ロメオとジュリエット」、ワグナー「恋愛禁制」、ベルリオーズ「ベアトリスとベネディクト」、ヴェルディ「2人のフォスカリ」「一日だけの王様」、ロッシーニ「とてつもない誤解」、ロッシーニ「ランスへの旅」（日本人による日本ロッシーニ協会による初演）、R・シュトラウス「無口な女」（舞台初演）、ドニゼッティ「当惑した家庭教師」、ビゼー「美しいパースの娘」、ヘルマン・ゲッツ「じゃじゃ馬ならし」。これらはいずれも各界から大きな反響と高い評価を獲得し、「きわめてバランス感覚に富んだ逸材」、「熟達の指揮ぶり、自らが意図する表現に歌手を自然に導く」、「オケから耽美的な響きを引き出し、抜群」等新聞各紙、音楽雑誌などで絶賛された。この他にも、R・シュトラウス「カプリッチョ」、ブリテン「ねじの回転」（新国立小劇場）等も高い評価を受けた。

2009年日本オペレッタ協会の音楽監督に就任した（2009年～2012年の4年間）。就任後、ベルタの「シューベルトの青春」、カールマンの「チャールダーシュの女王」、レハールの「ルクセンブルク伯爵」、シュトルツの「シュトルツの青春」やオペレッタ・ガラ等を指揮している。2004年11月より2007年10月までローム・ミュージック・ファンデーションの音楽特別研究員としてベルリンにて研修。2009年東京ユニバーサルフィルハーモニー管弦楽団専任指揮者、2012年9月常任指揮者に就任。また2023年4月より大阪のアマービレフィルハーモニー管弦楽団音楽監督兼常任指揮者に就任した。